特集 盛岡初、道の駅工事着工へ。新ステージをどう活かす?

令和6年夏の開業を目指す「道の駅もりおか渋民」の完成イメージパース。施設のさまざまな場所から岩手山と姫神山が望めます。

令和6年夏の開業を目指し、「道の駅もりおか渋民」の整備工事が進められています。盛岡市初となる道の駅のオープンに向け、現在の準備状況やオープン後の展開等について、盛岡市道の駅整備推進室にお話を伺いました。

盛岡市初の道の駅

「道の駅もりおか渋民」の整備工事は、令和4年秋に着工しました。平成18年1月に策定された「盛岡市・玉山村新市建設計画」に基づき、「豊かで活力あるまちをつくる産業の振興」を目的に計画を推進。盛岡市初となる道の駅への市民の期待は大きく、平成28年度から基本計画の策定を進めてきました。

国道4号渋民バイパス沿いに建設される施設の総面積は約35000㎡。日常の中に小さな非日常を彩るべく、岩手山と姫神山の眺望を道の駅のさまざまな場所から楽しめる空間づくりに力を入れています。

レストランや遊歩道から岩手山を、広場からは姫神山を望み、建物の先に見渡す田園風景も重要な要素として取り込むなど、景観を活かしたランドスケープが同施設の大きな特徴と言えます。

道の駅の基本機能である「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」、「防災機能」を併せ持ちながら、より多くの方に「盛岡・玉山」の魅力を伝える場となる道の駅。

盛岡市道の駅整備推進室長・立花孝司さんによると、そのコンセプトづくりに当たって、地域住民からのヒアリングやワークショップを重ね、さまざまなアイデア出しが行われました。

住民の声を道の駅に反映するため、複数回にわたりワークショップを開催。

「すでに岩手県内に36カ所の道の駅があるなか、地域の魅力を訴え、他の道の駅とは違う、盛岡・玉山ならではの道の駅をつくりたいという思いがあります。地域内外のさまざまな人が集い、関わることで、賑わいを創出し、これまでのイメージにとらわれない『私たちの未来をつくる希望(ゆめ)のステージ』をつくること。それが基本コンセプトです」。

地域全体を活気づけるフューチャーセンター

そして、「道の駅もりおか渋民」の特徴は、産直・物販、レストランなどの従来の役割のほか、「フューチャーセンター」の機能です。フューチャーセンターは、多様なひとが対話を通じて新たな価値やサービスを生み出す場のことをいい、「道の駅もりおか渋民」では、地域住民や学生、企業などが集い、地域の課題解決や新しい商品・サービスを生み出す場、さまざまな人のまなびの場として活用します。

「調査データによれば、これまでの道の駅は50代から60代をコアターゲットとしています。道の駅は、岩手県立大学や盛岡大学、そして盛岡農業高校が車で10分圏内に位置するため、若い世代が参画する企画などをフューチャーセンターで実施したいと考えています。将来、県外に出たとしても、郷土愛の醸成につながる活動を進めていきたい」と立花室長。

「地域を学び、新しいことにチャレンジする場に」と道の駅整備推進室長・立花さん。

すでに令和2年度から、市内の高校生や大学生などを中心としたメンバーが道の駅オリジナル商品を開発する「モリのタネプロジェクト」をスタート。地域の農畜産物を使った商品アイデアは多岐にわたり、事業者のアドバイスを受けながら、試作販売イベントや発表会も実施しています。

カワトクで行われた、「モリのタネプロジェクト」開発商品の試作販売。

住みやすいまち「玉山」を発信

また、近隣に位置する石川啄木記念館や渋民公園と道の駅をつなぐ散策路を整備し、まち歩きの拠点の役割を担う点も大きな特徴です。地域商店街との連携が必要不可欠であり、早速7月4日に玉山地域運営協議会の第1回検討会が行われました。盛岡商工会議所玉山地域運営協議会会長の菊地慶さんは、道の駅への期待と課題について、こう話します。

「道の駅が建設されるのは丘の上。そこからまちに人が流れるよう事業者が一丸となって協力する体制が必要です。小売業にとって大型商業施設ができることは営業面の厳しさもありますが、確かなのは、そこに人が集まるということ。今まで来なかった層がやってくる価値は大きく、地域で連携しながら、いろんな企画や取り組みを進めていきたいですね。まずは情報共有が大事です。道の駅を住民自身がどう活用するか、新しいまちおこしにつなげていきたいです」。

菊地さんは、人の賑わいが生まれることが、長期的に考えれば、「住みやすさ」につながると確信しています。

「玉山地域は盛岡の市街地から車で30分圏内。IGRを使って市街中心部に通勤する人も少なくありません。子育てしやすいまち、住みやすいまちとして発信できれば、まち全体が恒常的に賑わうと期待しています。少し大きい発想で、長く息づく実直な取り組みを進めていきたいものです」。

「地域の皆さんのさまざまな意見を求めています」と盛岡商工会議所玉山地域運営協議会会長・菊地さん

農畜産物をはじめ、自然に恵まれた資源豊かな玉山地域。産直・レストランだけではなく、テナントにも地域資源を活用した店舗が入居予定。フューチャーセンターでは、事業者や市民、学生が商品開発に取り組み、道の駅でテスト販売するなど、各機能が連携して地域の魅力発信を行います。

「道の駅から外へつながる場へ。北盛岡のゲートウェイにしていきたいですね。こんな形で使ってみたいという提案もお待ちしています」と立花室長。地域住民に愛される道の駅に向け、いよいよ動き出します。